

会 議 録

会議の名称	中学校再編に係る地域説明会（米山地域）	
開催日時	令和4年10月18日（火）	
	午後7時00分開会	
	午後7時50分閉会	
開催場所	米山農村環境改善センター2階 視聴覚室	
事務局（教育委員会）氏名	教育長	小野寺 文晃
	教育部長	小林 和仁
	次長兼教育総務課長	菅原 正博
	学校再編推進室長	白岩 登世司
	学校再編推進室長補佐兼学校再編推進係長	千葉 道宏
	学校再編推進室 主査	西條 文武
	学校再編推進室 主事	佐藤 春香
参加者数	19人	
事務局	開会 午後7時00分	
教育長	挨拶	
事務局	配布資料に基づき「中学校再編の考え方及び今後の進め方」、「中学校再編準備委員会の設置」について説明	
事務局	意見交換・質疑応答	
参加者	学校再編準備委員会について、4つの区域で設置するのか、それとも各町域で設置するのか。	
事務局	再編準備委員会について、基本的には4つの区域ごとに設置する。米山であれば豊里と南方と3つの町域で合同の設置となる。	
参加者	<p>最後は、再編校の位置が、一番の問題になるが、そういう調整をこの委員会の中で、はたしてできるのか。小学校の統合は、米山町域だけでやっているの、そういう問題は出てこないが、中学校の場合は異なる。</p> <p>また、このままの推移が進むと、また何十年後には単学級になるところがあるが、4つの区域がまた3つになったり、2つになったりするのか。</p> <p>それから、残された学校施設の跡地利用だが、地元で有効活用するには規模が大きすぎる。その有効活用の検討についても、再編準備委員会の設置と同時に、有効利用の委員会等も設けた方がいいのではないか。</p>	
事務局	<p>まずは再編準備委員会の中で、位置を皆さんで協議していただきながら、進めていきたい。その途中では、当然、議会にも報告し、教育委員会の中でも協議していきたい。</p> <p>将来的な部分については、まず今回このように4つの区域に分けたのは、基本的には各学年2クラス以上の学級編成という部分で、全校で6学級から18学級が確保できるように分けたものである。</p> <p>もう一つは、通学時間であり、登米市は大変広いので、文部科学省の基準に沿って、スクールバスを利用しても概ね1時間以内ということから、この4つ</p>	

<p>参加者</p>	<p>の区域としたものである。</p> <p>どこまでを将来として再編するかについては、その時点時点で生徒数の推移を見ながら、次に向けた考え方も必要になると考えている。</p> <p>3つ目の学校施設の跡地利用について、確かに小学校より中学校は大きい。この点は教育委員会だけでは難しいところではあるため、市の関係部署とも連携し、地域の皆さんにも意見をいただきながらより良い活用方法を検討していきたい。</p> <p>今のところは、学校再編に重点を置きたいと考えているため、どのように協議の場を設けたらいいのか、今後検討していきたい。</p> <p>再編構想の4つの区域分けについて、中学校が置かれている町を1つとして区切られているが、現在、小学校から中学校に上がる際に、部活動やその他の理由で他町の中学校に通っている子どももいる。300人で作った中学校に200人しか通学しなくて、残りの100人は隣の学校に通うという心配がないか。この区域分けの考え方を、小学校区に落とし込んで、もう一度考えてみてはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>当初は、小学校の通学区域で町域を分けるということも考えたが、児童生徒の一体性に配慮し、小学校の通学区域を基本として町域単位としたところである。</p> <p>また、隣接する中学校への通学については、部活動による区域外通学という問題は出るかもしれないが、それを認めるかどうかは基準による。保護者の関係もあり、現に通学区域外に通学している生徒もいる。</p> <p>どうしてもという時は、そのような手だてもあるが、基本的には、中学校についてもまずは町域単位ということで、このような区域分けにしたものである。</p>
<p>参加者</p>	<p>教職員数について、中学校再編でどの程度人数が減るのか。先進的な地域の中学校の教職員数と、一般的な中学校での教職員数を教えてほしい。</p> <p>また、生徒数は、令和2年が600人前後で、令和2年だと500人で20%減少し、令和20年だと350人で45%減少する。耐用年数は50年程度だが、令和12年に建てたら、校舎は何年持つのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>教職員の人数は法律で決まっており、学級数に対して決まる。1学級について、だいたい1.15人で、宮城県の場合は、その数に対して若干多い人数となっている。現在、1学級は40人学級、一部では35人学級だが、その学級がいくつあるかによって教職員の人数が決まる。先進的な地域であっても、過疎地域であっても、人数は同じである。</p>
<p>参加者</p>	<p>非常勤講師は人数に入っているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>教職員定数の加配というものがあり、例えば、学校再編があれば2年前から2年後まで1人増やすなど、国で特別に付ける人数がいる。その加配は、2年か3年で終わるため、非常勤講師を充てている。法律に基づき、学級数に応じた教職員数が決まり、その他に加配というプラスアルファがあって、教職員の人数は決まるということになる。</p> <p>特別支援学級については、1学級8人である。8人を超えれば2学級にな</p>

	<p>る。ただし、様々な障害を持って特別な配慮が必要な子どもが増えているため、8人に対して1人の教員では厳しいということで、教育長会などでは、その基準となる数を半分に減らしてほしいというような要望を国にしている。</p> <p>加配についても、努力はしているが、国の予算の中で与えられる枠なので思うようにはならないと同時に教員になる人がいない。講師を見つけることが非常に難しい。学校再編とは別に、教職員数は心配になるということだが、1学級が2学級になれば当然、教職員数も倍になる。単純には、そういうものだと理解いただきたい。</p>
事務局	<p>校舎については、鉄筋コンクリート造であれば65年を目安と考えている。あと状態にもよるので、傷みが少ないとか、傷んでいるとか、それを調査して使えるかどうかの判断をする。客観的に校舎の状態などを確認し、どの校舎がよりよいかを位置も含めて意見をいただきながら、決めていきたい。</p> <p>建設後50年近く経っている校舎もあるので調査して、今後どれくらい使えるかを判断するが、もし難しい場合は大規模改修や、さらに新築も含めて考えていかなければならない。</p>
参加者	<p>小学校の再編が終わった町域がある区域では、中学校の建物を再利用するという考え方だけでなく、廃校した小学校を中学校として利用できると思うが、そういった考えはあるか。</p>
事務局	<p>小学校の校舎の利用について、再編準備委員会の中で、まず既存校舎ということで検討していただき、もし、ベストな位置が小学校の位置ということになれば、調査することになる。</p>
事務局	<p>小学校の再編状況について説明</p>
事務局	<p>閉会 午後7時50分</p>